

## 各種団体等と市議会との意見交換会開催結果（概要）

枕崎商工会議所女性会と市議会との意見交換会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面による交換会とし、提出された質問事項について文書で回答しました。意見交換会の質問事項と回答については次のとおりです。

テーマ 人口減少に歯止めを掛けるための街づくり（魅力ある街づくり対策について）

### 【主な質問・意見】

#### 1 他市に先駆けて「シニアタウン」の構築（シニアが住みやすい街へ《アクセスの整備》）

**問** 近隣市町村で稼働している乗り合いマイクロバス、タクシーは本市で実施する考えはあるか。桜山校区・別府校区の高齢者への対応、交通弱者への対応。《買物・病院受診等》

**答** 平成31年度10月から、高齢者、障害者等を対象にしたタクシー利用に係る運賃助成制度を開始した。また、令和2年度は公共交通システム検討委員会を設置し、タクシーの利用状況を検証しながら、高齢者をはじめとする交通弱者に配慮した市民の地域交通の利便の増進に資する新たな地域交通システムの構築に向け、検討、取組を進めていく。

**問** 高齢者の集会場として、空き家を再利用してはどうか。（無料開放）

**答** 空き家住宅・空き家建物を、居住環境の整備改善、地域の活性化に資する滞在体験施設、交流施設、体験学習施設、創作活動施設、文化施設等の用途に供するために、その住宅等の取得、移転、増築、改築等を実施する場合、社会資本整備総合交付金による空き家再生等推進事業がある。

地方公共団体が事業主体の場合には、事業費の2分の1を国が補助する。民間が事業主体の場合は、国が3分の1、地方公共団体が3分の1を助成し、残りの3分の1を実施団体が負担するが、これまで本市では活用事例がない。

また、本市では空き家情報登録制度（空き家バンク制度）を実施している。制度開始から30件近くの登録があり、これまで10件以上の契約が成立している。

これらの補助事業を活用した取組が考えられる。

#### 2 内鍋清掃センター跡地（火之神公園一帯を含む）の今後の利用計画（観光面を特に重視）

**問** キャンプ場等の施設利用料は無料だが、防犯上の管理問題等をどのように考えているか。

**答** これまでの議会審査では監視カメラ設置を提案しているが、設置の回答は得られていない。電話回線が必要との回答はあったが、公衆電話は設置されている。

所管する水産商工課職員の巡回、警察とも協力し、警察の巡回コースになっていると当局回答。

**問** 電気・水道代等の費用問題も含めて運営費はどのように賄っているか。

**答** 管理費については、公園内のトイレ、蛍光灯を含めた電気料として年間 35 万円程度、水道料 13 万円程度、清掃委託料 70 万円程度を支出している。

**問** 丸太のロッジ等を設置して、数年がかりで公園一帯（道路を含む）を整備する計画はあるのか。

**答** 内鍋清掃センター跡地は、ごみ収集の中継施設として利用する予定であることが市当局から示された。新ごみ処理施設は南さつま市に建設される。本市のごみは内鍋の中継施設に集められ、その後、南さつま市のごみ処理施設へ運搬することとなる。

丸太のロッジ等を設置する整備計画等の観光に活用する整備計画は、現在示されていない。

**問** アウトドア志向《特に家族での利用》が全国的に増加傾向にあるため、他市にはないキャンプ場として整備してはどうか。

**答** 火之神公園はキャンプ場として人気があり、最近利用者が増加している。市当局としては、今後駐車場を増やす方向で検討しているとのことである。

また、ウィズコロナの新しい生活様式において、家族等の少人数でのキャンプに対する需要は確実に増加するものと考えられる。この提案には大賛成であり、お互い知恵を出しながら他市にはないキャンプ場について考えていきたい。

開聞岳、硫黄島等、眺めは最高ですばらしい。海を活用する体験型の観光開発が必要ではないのか。貝堀り、カヌー乗船、またかつおぶし製造、お茶摘み等の体験等、枕崎の産業とのコラボも考えられる。火之神プールの施設を充実させる。

戦艦大和の犠牲者を慰霊する「平和祈念展望台」においても子供たちへの平和教育のために有効な施設となっている。

また、火之神公園は「坊野間県立自然公園」に含まれるので、南さつま市と連携すればキャンプ利用者にとって、より魅力のあるキャンプ場になるだろう。

**問** 施設使用料の徴収、大手コンビニ等の誘致を行い、よりいいものにしてはどうか。

**答** 市当局としては施設使用料の徴収や大手コンビニ等の誘致について、今後の予定はないとのことである。

大手コンビニ等の誘致より、地元の業者にお金を使ってもらうことが重要と考える。キャンプ利用者に対し、地元業者によるバーベキューセットの配達。(枕崎産の牛肉、豚肉、腹皮、貝類等)

お魚センター、地元飲食店等の利用喚起など。

**問** 内鍋清掃センター跡地の再利用計画は、現在どの程度進んでいるのか。ダイオキシン問題などの環境対策はどうか。

**答** 内鍋清掃センターは焼却能力が2,000kg/h以上、4,000kg/h未満の施設であり、平成30年9月20日の調査において排出ガスは県の適応基準値の5 (ng-TEQ/m<sup>3</sup>) に対し、0.10 (ng-TEQ/m<sup>3</sup>) である。このことからダイオキシン類対策特別措置法第26条の規定に基づき環境基準を達成していた。令和元年度についても引き続き常時監視を実施し、ダイオキシン類による汚染の状況について把握することとしている。

また、土壌汚染の調査においても環境基準値1,000 (pg-TEQ/g) 以下に対し、2.8 (pg-TEQ/g) であり、基準に適合している。ダイオキシン類排出調査結果においても排出基準値5 (ng-TEQ/m<sup>3</sup>N) に対し、0.087 (ng-TEQ/m<sup>3</sup>N) であり基準を達成している。

**問** 市外からの観光客から好評である「火之神プール」「戦艦大和慰霊碑」をさらに活用した火之神公園一帯の整備についてどう考えているか。

**答** 市当局からは、今のところ火之神プール、戦艦大和慰霊碑の整備については考えていないとのことである。また、慰霊碑がある場所の一部が個人の所有地であるため、何かをするにしても相手方と協議する必要がある。

火之神公園は坊野間県立自然公園の一部であり、自然景観を保護するため特別地域として指定されており、開発行為の一部制限がかけられている。しかしながら、近年、森林管理署の同意の下、火之神公園の園路整備を行い、昨年度は公園とプールをつなぐ歩道等を新設した。現在、公園内でのキャンプ利用者が増加しており、今後も火之神公園の整備については拡充を図っていくべきだと考える。

**問** 内鍋清掃センターから見る赤水海岸は絶景で、鍋平山への道路もドライブコースとして利用できないか。

**答** 鍋平山への道路のドライブコースについては、幅員や急勾配等の課題があり、頂上付近は鉄塔があり、駐車スペースが狭く実用的ではないと考える。

### 3 お魚センターを「道の駅まくらざき」「風の市場」といった施設への利用転換

**問** <枕崎は終点>という地の利を生かした施設利用方法を考えるべきではないか。

**答** 「道の駅」を枕崎にも設置してほしいとの声は市民の間にも多数ある。市議会に対しても一昨年の建設業組合と市議会との意見交換会の中で、建設業組合の方から道の駅設置の要望が出されている。市議会の一般質問においても最近だけで3回ほどは取り上げられており、各委員会の中でも論議されている。

市当局においては、過去、お魚センターではなく、地場産業振興センターを道の駅としてはどうかという検討がなされたと聞いているところだが、現時点においては昨今の新型コロナウイルスの見通しや農林水産省所管の枕崎漁港敷地を国土交通省所管の道の駅へ利用転換することの困難性を気にかけているようである。

いずれにしてもどういう形で実現したほうがよいのか、もう少し具体的な動きが高まっていかねばならない。

全国に1,180か所設置されている道の駅が、2021年度には本市に1か所もないのは残念なことだと思う。「枕崎は終点」という地の利を生かすとなると、宿泊型の道の駅施設設置が想像されるが、この点も十分な検討が必要になると思う。

**問** お魚センターの家賃が高すぎるので、店舗が固定できていないのではないか。

**答** 家賃については近隣の類似施設と比べた場合、若干高いことは認識している。既存店舗との兼合い、お魚センターの経営事情があるが、今後、協議・検討していきたい。

現在、店舗区画20区画の内訳は民営店4.5区画、チャレンジショップ活用店3区画、直営店11区画、観光協会1.5区画の合計20区画で、新規店が出店した場合、直営店の区画を割り振る。

**問** 家賃補助制度はあるが、長期間店舗を構えられる工夫が必要ではないか。

**答** 出店者の経営努力が重要だが、センター内において月1回の意見交換会、また年4回の大々的なイベントを実施して集客に努めている。

**問** 例えば、小規模農家等が生産した野菜、果物等を気軽に持込み販売できるスペースを確保…場所代<家賃>を取らずに販売手数料として売上金10%を支払う。

**答** 既に取り組んでおり、1階水槽横にコーナーを設けている。数店の青果商、生産農家の方が出品していて、精算についてはセンター内のレジを通し、一定の手数料を頂いている。

今後も充実させる方向でいるため、皆さんからのアイデア、また出品したい方がいたら御連絡いただきたい。

**問** 「ふるさと納税」の利用方法や枕崎市の返礼品について市民の周知度はどれくらいか。

**答** 枕崎市ホームページで広く市民の皆様にお知らせしてあるが、日頃ホームページを閲覧されない方々の数を考えると認知度が決して高いとは言えないと思う。

**問** 枕崎市民が返礼品にどのようなものがあるか知らないと促進もできない。

**答** 広報まくらざきなどを活用して、市民の方々が日々の生活の中で自然に目に留まるアピールの方法を考える必要があると思う。

**問** おそらく市民は返礼品がどのような品物があるか知らない。

**答** 返礼品だけを集めたイベントを開くなど、目で見て、味わうことのできる機会を積極的に増やすことで市全体の活性化につながると思う。